

焼岳の火山活動解説資料（平成 22 年 11 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況

山頂部や岩坪谷には従来から噴気孔がありますが、噴気異常等に関する通報はありません。

・地震活動（図 2、図 3※）

焼岳付近を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は静穏に経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

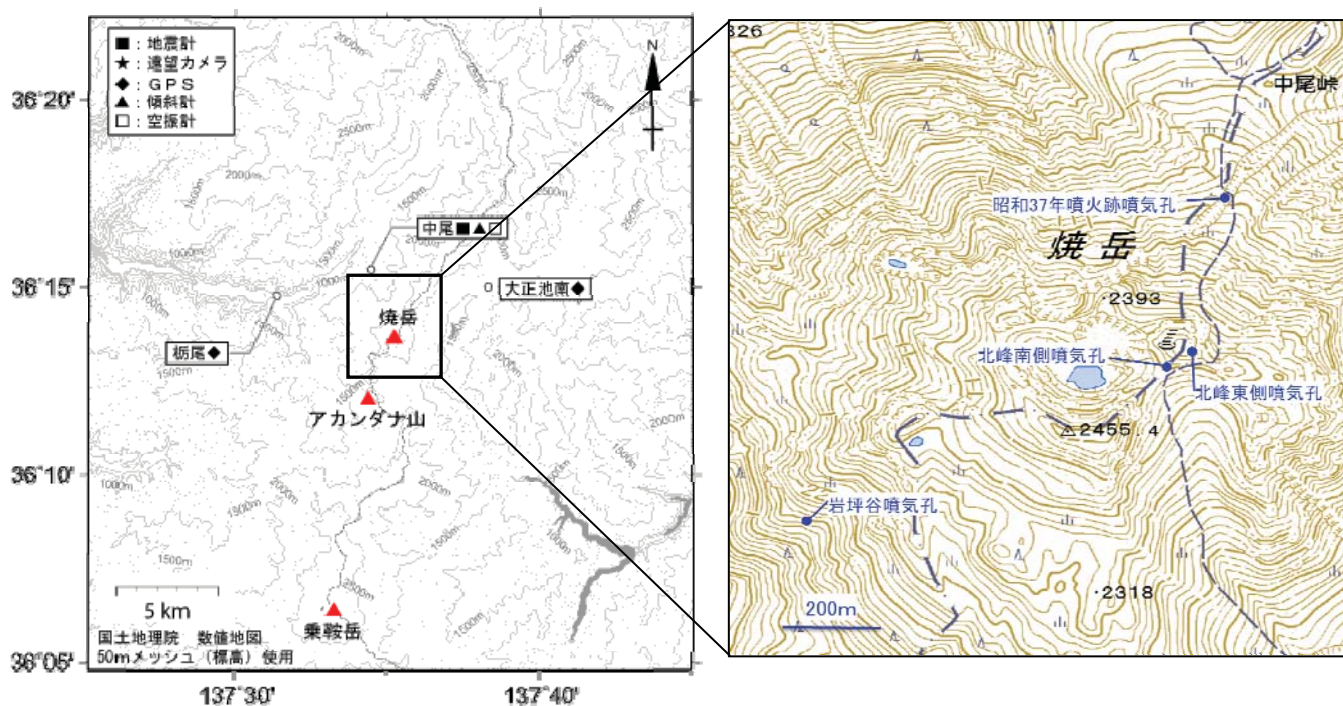


図 1 焼岳 気象庁の観測点配置および噴気孔の位置

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 22 年 12 月分）は平成 23 年 1 月 7 日に発表する予定です。

※この記号の資料は気象庁のほか、京都大学、名古屋大学、東京大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『2万5千分1地形図』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

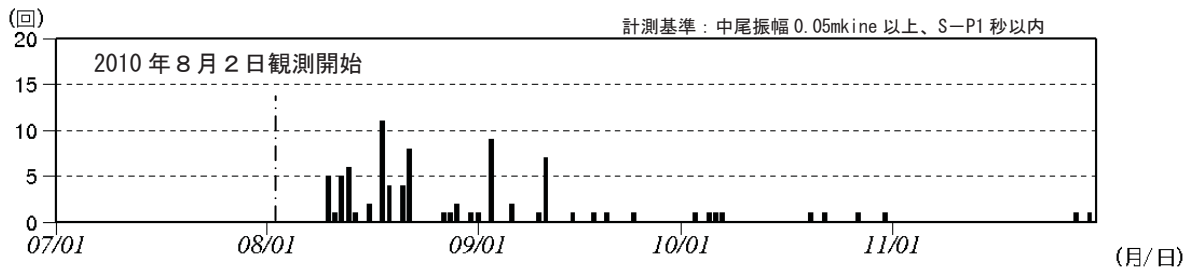


図 2 焼岳周辺の地震回数

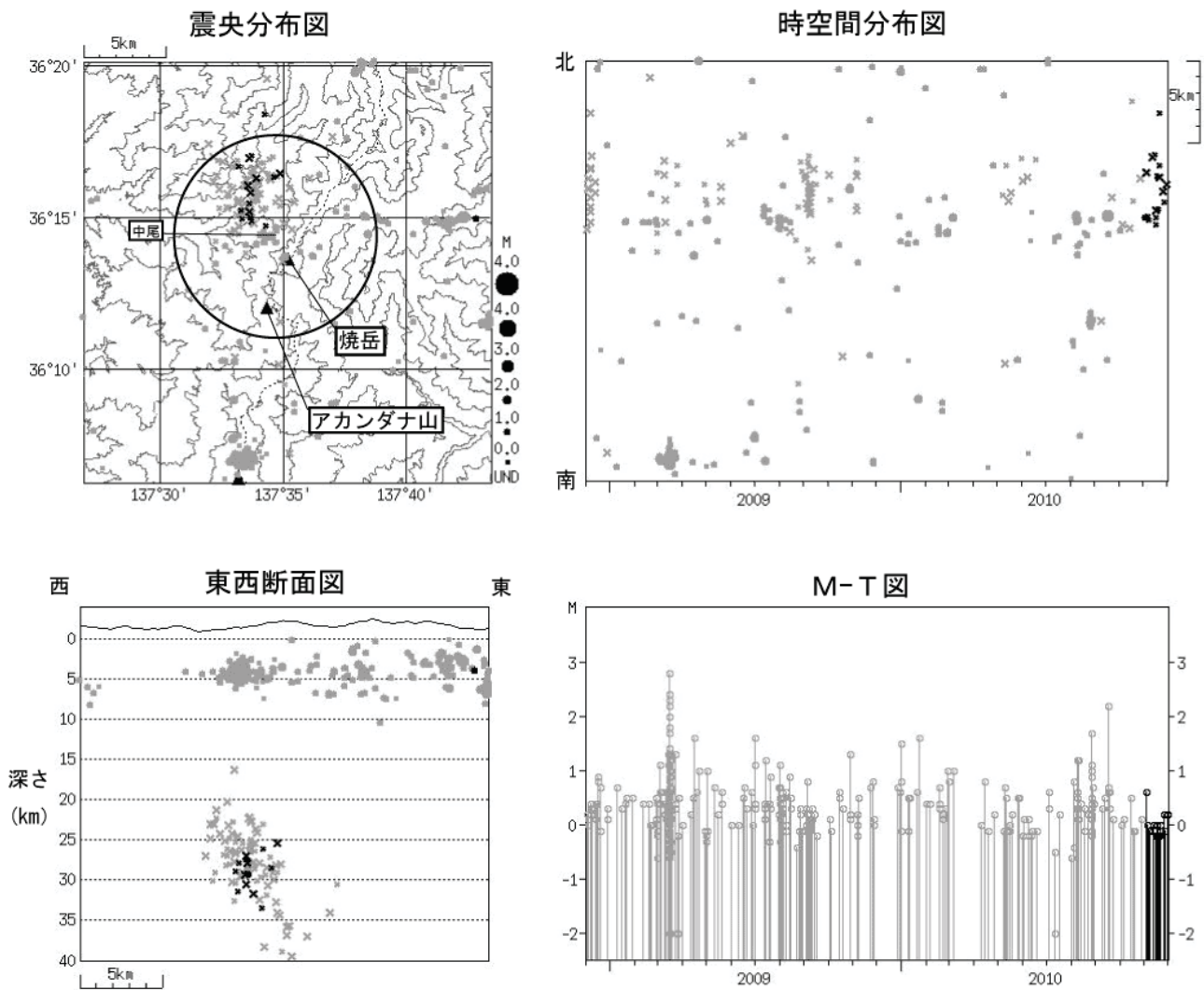


図 3※ 焼岳 広域ネットによる山体・周辺の地震活動(2008 年 12 月 1 日～2010 年 11 月 30 日)

● : 2008 年 12 月 1 日～2010 年 10 月 31 日

● : 2010 年 11 月 1 日～2010 年 11 月 30 日 × : 深部低周波地震

震央分布図中の円は図 2 の計測対象地震 (中尾で S-P 時間 1 秒以内) のおよその範囲を示す。

M (マグニチュード) は地震の規模を表します。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。